

弊社社長（芳賀由也）がFM ラジオ（酒田ハーバーラジオ）のパーソナリティーを務めています。「最上川・仙天堂通信」（ポッドキャスト）を検索するとスマホで過去にお話したことを全国どこからでも無料で聞くことができます。（記念看板設置についてもお話しています）

兼高かおるさんは、貴重な写真を特別にご提供くださり、
文も校正してくださりました。

31年間150ヶ国を巡り 日本中の家庭を魅了した 兼高かおる世界の旅

「兼高かおる世界の旅」は1959（昭和34）年から東京放送系で放映された旅番組です。日本で初めてのテレビ海外取材でヨーロッパ、アフリカ、南米、中近東、アジアをまわり、帰国後12月から放映がスタートしました。聞き手芥川隆行がなげかける問いを受け現地を見て来た兼高が説明、芥川がなるほどとうなずき更に話を引き出すスタイルで1990（平成2）年9月まで31年間続きました。その間に旅した距離は地球180周ほどにおよびます。日本人の目で世界をとらえたドキュメンタリーで、



1978年英国ウェールズの城で
チャールズ皇太子にインタビュー



1962年ホワイトハウスにケネディ大統領を取材



1959年最初の取材旅行で
画家サルバドール・ダリの自宅を訪問

時々の世界の人の様子を訪ねることを主とし、兼高自身もスカイダイビング、スキューバダイビング、気球でのアルプス越えはじめ様々なことを体験、南極点、北極点へも出かけました。また、画家サルバドール・ダリ、ケネディ大統領、フィサル国王、チャールズ皇太子など世界の要人とも会見。海外渡航自由化前、海外旅行が一般の人にとって夢であった頃から、世界の人のくらし、衣食・住、文化をお茶の間に届け多くの人の目を海外に向け、渡航自由化後多勢の人が海外に出かけるきっかけをつくりました。

兼高かおるってどんな人？



デンマークドレスで、世界一周早まわり帰国

兼高かおるは1958（昭和33）年7月、新潮社主催の世界早周りでスカンジナビア航空機DC-7Cにより73時間9分35秒の新記録を達成しました。以後、旅客機はジェット機となったため、プロペラ機としての最後の記録です。これが後にテレビ番組「世界の旅」にたずさわるきっかけとなりました。1985（昭和60）年より淡路島の「兼高かおる旅の資料館」の名譽館長、1985（昭和60）年から2006（平成18）年「横浜人形の家」館長、日本旅行作家協会会長、ホスピタリティウィズム専門学校名譽校長などを歴任された。

兼高かおるさんは山形には貴重な文化と観光資源がたくさんありますといつも話されていました。

兼高かおるさんとの出会いはいは仙人堂

芳賀由也

私は、テレビ番組「兼高かおる世界の旅」に憧れ、世界を旅したいと夢みていました。

西廻り航路の1番機が飛んだ5年後の今から40数年前、ついに約30日間の世界一周の旅を実現しました。それから20数年の時を経て、山形さくらんぼが赤く色づき始めた頃、兼高かおるさんから仙人堂に行きたいと私の自宅に電話が入ったのです。夢ではありませんでした。



大河ドラマ「源義経」や芭蕉の「奥の細道」に表われる仙人堂

数日後、兼高さんが訪ねたその日は、あたかも「五月雨をあつめてはやし最上川」に相応しい最上川でした。それ以来、情報を発信することの大切さなど、多くのご指導をいただくようになりました。

ある時「やまがた雛のまち」の新聞記事を送ったことにより、山形県内はもちろん、九州・飛騨高山・信州・越後などお雛様を見に一人で旅に出ました（山形県内の観光地は約120ヶ所訪ねています。延べ日数は60日間以上でした。まさに世界を旅しているようでした。また、宝塚大劇場でのベルサイユのばら鑑賞や東京にある各国の料理店によくお連れいただき、タイ・ドイツ・アメリカ・イタリア・ベトナム・スイス・ブラジルなど、食文化のことを教わりながらの食事は、まるでその国を旅しているかのようでした。

兼高さんは折りにふれ、いつも話題の観光について電話で教えていただき、



飛鳥のじゃがいも畑（酒田市）



最上川特産文化講演会（平成7年9月28日酒田市にて）



兼高さんとの対談から（平成10年12月13日「横浜人形の家」館長室でお話を伺いました。）



山形県内の温泉地にて

感謝でいっぱいです。これからもこの感謝と思い出をいつまでも大切にしていきたいと思っています。

私のような無名人にも、山形県の観光のためにいつも温かく接してくださった兼高かおるさん。仙人堂が全国の人にも親しまれるようになったのも兼高さんのおかげと感謝しています。

最初の喫茶店「カフェ・パウルスタ」(明治44年創業)でした。

世界の旅や仙人堂のわき水コーヒーに参考になればと、世界のコーヒーのことなど三時間にならぬお話はあつというまで、昨日のことのように思えてなりません。



最上川舟下り義経ロマン観光の船中



千年以上の巨木 幻想の森（戸沢村）

参考になることはかりでした。

最後にご一緒したのは、銀座を散歩しながら芥川龍之介、与謝野晶子などにも愛された日本

語り継が
れていく
こと

ちびまる子ちゃん の夢の人兼高かおるさん 兼高かおるさんとさくらももこさん



兼高かおるさんを通じてさくらさんのサインを私の娘にいただいた

先生からまる子ちゃんの将来の夢は何ですかと聞かれ「私の夢は通訳になって兼高かおるさんみたいに世界中を旅することです。外国の人々と話をするというのはとてもすばらしいことだと思います。」

このことから当時「ちびまる子ちゃん」を見ていた子供たちは、兼高さんの名前は知っています。

私の三女が現在37歳ですが、小学3年生の時、友達のお母さんが夕食の時、「兼高かおるさんが学校に来るんだって」と家庭で話していたら、子供から「お母さんはなぜ兼高かおるさんのことを知ってるの」と聞かれたというのです。

お母さんは、「あんたはなぜ知ってるの」と聞き返したら「ちびまる子ちゃんの夢の人は兼高かおるさんだもん」と言ったので、あれっ？と思ったのです。兼高さんにこのことを話したら夢の人になったているとは知らなかったと話されていたので、そのビデオテープを送りました。その後、兼高さんにさくらももこさんから電話が入り、インタビューの依頼を受けたと私の娘に話したら、さくらさんのサインを欲しいと言ったので、兼高さんを通じていただき、兼高さんと



ちびまる子ちゃんの夢の人兼高さんの亀ヶ崎小学校楽焼窯見学(酒田市)



最上川舟下り義経口マン観光の観光船



疲れをいやす仙天堂



毎日賑わう仙天堂

出会った仙天堂に飾っています。それを見ている観光客を見て、出会いはいろいろな形で目の前に現れる不思議さに感動します。

私が小学校のPTA会長の時、みんなで文化の漂う地域にしようとして学校に造った楽焼窯に案内しました。

児童たちは、ちびまる子ちゃんの夢の人兼高かおるさんが学校に来たということに感激でした。

先生は、「お父さん、お母さん、地域のみんなまで造った亀っ子焼(楽焼窯)はすばらしいからまる子ちゃんの夢の人兼高かおるさんが東京から見に来たんですよ」と話していました。児童たちにも地域や文化の大切さが伝わり、兼高かおるさんのことが、このようなことから語り継がれていくにちがいありません。

兼高かおるさんは、さくらももこさんよりインタビューを受け、そのことが新潮社刊行のさくらももこ編集長「富士山」第4号に掲載されていることから私に送ってくださいました。

新潮社(平成12年12月20日発行)の「富士山」第4号より

「兼高かおる世界の旅」というTV番組が毎週日曜日の朝、約30年余りもの長い年月放送されていた。多くの日本中の人々がこの番組を楽しみに観て、外国への夢や憧れをつのらせると共に、どこへ行ってでもステキで素晴らしい兼高かおるさんにつとまりしていたのである。

私も、かなり小さい頃から「兼高かおる世界の旅」を毎週観ていた。両親と姉と共に狭い茶の間でテレビを観ながら海外への夢をどんどんふくらませていた。

テレビを観ながら私は「私も、兼高かおるさんみたいになりたい。たくさん外国に行けるようになりたい」と、よく言った覚えがある。それを聞くと母は「兼高さんみたいになりたければ、まずはものすごく勉強して立派にならなさい」と言った。美しく、スタイルも良く、上品でなければいけないという遺伝子的な要素が必要なることを母は当時の私には教えてくれなかった。

しかし、中学に入って英語のテストを受けたとたん、私は兼高かおるさんみたにはなれないという事を、非常にあっさり自覚した。

それから時は流れ、私は兼高かおるさんとは違う職業なのに、海外へ旅に出るは皆様にそのことを報告するという機会を得た。漫画家からの出発だったのに仕事で海外に行けるようになったことは幸運としか言いようがない。夢が変化球で叶うこともあるのだ。だから、少しづつうまくゆかないことがあっても失望したりせず「また何かいいことあるさ」と思うことは肝心だ。

今回、兼高かおるさんにインタビューさせていただくことになり、私も両親もすごく喜んだ。母は「私も会いたいよ。兼高さんステキだもんね。よろしく伝えと



いてね」と何回も言っていた。

現在、兼高さんは横浜にある「横浜人形の家の館長さん」も務めており、その日はそちらで展示替の指示をしてらっしゃった。

私達が到着すると人形達に囲まれていた兼高さんの姿が見えた。

兼高さんは「ようこそ、初めまして」と歓迎して下さり、世界中のお人形を見せて下さった後、館長室でいろいろなお話を下さった。

ももこ「兼高さんにお会いすることができて本当にうれいす。ずっと家族で見ました」

兼高「「ちびまる子ちゃん」の中にも、私の名前が出てきたということを、山形県の知り合いの方からききまして、その方がビデオテープを送ってきて下さったんです。とてもうれしかったですよ」

ももこ「30年以上も世界中を旅されて、とても大変だったと思いますが…」

兼高「もう、ただただ夢の中で毎日過ぎていったという感じなんです。旅先では取材のあいまいにメモをとったりして、それをホテルに戻って夜中にまとめて、また次の朝は6時から取材開始というスケジュールでしたから」

ももこ「それはハードですね。で、日本に戻られている間も毎日お忙しく過ごされていたと思います。が、どんなふうにご過ごされていたんですか」

兼高「だいたい、海外取材が約40日ぐらいで、日本に戻ってきて滞在するのが1ヶ月ぐらい、というのをくり返していました。日本では、取材してきたテープを編集することにも参加してましたし、取材した情報が正しいかどうかの確認も、自分で調べてやっていました。それからアフレコの仕事がありまして、そういうことをやりつつ、次の取材のプランニングから準備などもしておりましたよ(中略)

兼高さんは、30年以上かけて160カ国余りの国々を旅してきた。庶民の生活から貴族の生活まで、こんなにたくさん旅をして取材をしたという人は、世界でも他にいないのではないかと思います。(中略)

兼高さんが美しく元気であらうというのは、もちろん天性の美しさもあるが、精神面でのやる気と真面目さと力強いエネルギーがいつでも流れているからだと、お会いしてとてもそれを感じた。(中略)

兼高かおる出羽の旅

仙人堂通信

最上川から――

☆☆☆☆

私は社会人になって5年目の時、会社から特別休暇をいただき世界一周の旅に出た。テレビ番組「兼高かおるの世界の旅」に登場して、いつか地球を一周してみたいという夢を実現させたのである。当時おそろしく誰かが、未知の外国に旅をと、夢を膨らませたのではないだろうか。

時を経て93年。山形はサクランボがようやく赤く色づき始めたころだった。自宅の電話が鳴り受話器を取って、聞こえてきた声にまさかと思った。信じられない思いで一瞬戸惑った。今でも覚えていて、一芳賀さんがパーティーで話していた仙人堂に行ってみたのですが……。それは紛れもなく、31年間世界160カ国を巡り日本中の家庭を魅了した、あこがれの兼高かおるさんだった。

仙人堂に来られる。私はもちろん考えてみたこともなかった。だが現実なのだ。心が震えた。

10日後、ついにその日がやってきた。朝が最上川ですれすれまでたれこめ、山々はまさに幻想的な風景そのもので、ふと芭蕉が目の前に現れそうな6月の小雨模様の日だった。

仙人堂を訪ねた兼高さんは話された。「仙人堂の歴史はもうろく大切ですが、

それよりも、埋もれた仙人堂を整備し船から降りて参拝できるようにしたという行動にこそ、もっと多くの理解をすべきです。その地域にしかない良さが本来の観光として振舞い起されていくことの大切さを、教えてくださいました。

その後、私は「やまがたの観光」について書かれていた情報誌を送ったことがきっかけになり、兼高さんと一緒に各地のお雑踏を見に歩

多くを教えていただいた

たんだ船から降りて歴史文化遺産を訪ねることこそが最大の魅力である。小さいけれども三百年前の人たちが建てた素晴らしい技術・美が見られる。そして、義経・芭蕉の歴史が刻まれている。しかも舟運を通してこのような出会いが始まることは、夢にも思っていなかったことである。(芳賀由也 作家船酔い)

日頃ご利用いただいております美しいルビー色に輝くさくらんぼを、見た瞬間すぐ口にくみたくくなります。そして口に入れた瞬間、ジューシーな甘〜い果汁がさわやかな香りと一緒に、口いっぱい広がります。可愛らしい形からまさに「小さな恋人」、「初夏の香り」として全国の方々に愛されています。

さくらんぼの品種は数十種類にもおよびます。どれをとっても初恋の味。今年も最上川特産の甘いさくらんぼを召し上がってください。



兼高かおるさんは、山形さくらんぼ狩りに感激されていました。そして、さくらんぼ選果場も視察されています。下記のとおり召し上がりていただいております。

さくらんぼの印象について次のように話されていました。

舌の上ではお砂糖のように甘く、これこそ自然と人間の知と技の合作である。

最上川船上トークライブ芳賀由也のプロフィール

- 山形県立東高等学校・日本大学経済学部卒業
- (株)ロッテに入社(海外資材部・製造部・総務部)
- 仙人堂の歴史と義経を最上川に魅了された男
- 今まで3回以上トークライブ達成(ガイド)
- 各界を代表する著名人と対談している(兼高かおる・野田聖子・下町重子・池田理代子・今井通子)
- 道場六三郎・斎藤茂太・諸先生等20名)
- FMラジオのパーソナリティーを務めている
- 小説やエッセイを9冊執筆(小説「五月雨の頃」「義経と最上川」「芭蕉と最上川」等)
- 最上川義経ロマン観光と最上川特産社長
- 外国人には英語で説明
- 兼高かおるさんと2人で全国延べにして60日以上旅に一緒に、私の観光の考え方は兼高かおるさんに影響を受けている
- 45年前最上川雪見船を企画し、商品化に成功

※カーナビは「高屋駅」と入れてください。

仙人堂にも行く
案内付
周遊60分
車の回送不要

弊社の舟下りは就航46年目(2023年現在)
検索 兼高かおるさんと仙人堂
※仙人堂は船でしか行けないから大人気!

最上川舟下り義経ロマン観光

TEL 0234-57-2148
FAX 0234-57-2256

〒999-6401 山形県最上郡戸沢村大字古口字高屋 3112-1 (JR 高屋駅駐車場内)

乗船受付所/JR 高屋駅(無料駐車場有) 乗船場/高屋(駅よりすぐ近く)

記念看板設置
特別企画

兼高かおるさんにご指導いただき、大人気の最上川ならではの「最上川風ポトフいも煮」(鴨肉・山菜いも煮)を十割そばとセットで、船中または仙人堂アウトドアカフェでご利用いただけます。(要予約)

佐藤錦 6月18日頃から

高砂 6月10日頃から

山形美人 6月15日頃から

ナポレオン 7月1日頃から

月山錦 黄色いさくらんぼ 6月下旬から

南陽 7月初旬から

紅秀峰 7月初旬から

大将錦 7月初旬から

新品種「紅王」も大好評!
さくらんぼの花

「最上川ふれあい広場」発行の最上川特産は、さくらんぼをはじめ山形県内の特産品を取り扱っております。ぜひご利用下さい。

お問い合わせ・ご注文先
最上川特産(販売) (37年実績の) 通販会社です
責任者: 芳賀由也

最上川特産は新鮮な本場の収穫を通信販売で産地直送しております。

さくらんぼ メロン 桃 すいか 和梨 ぶどう 柿 洋梨 りんご 米 花

〒998-0842 山形県酒田市亀ヶ崎3-15-5
☎0234-24-8280 FAX 0234-24-8279